

二八 銀はわたしのもの、金もわたしのものと、万軍の主は言われる。  
二九 この新しい神殿の栄光は昔の神殿にまさると、万軍の主は言われる。「この場所にわたしは平和を与える」と、万軍の主は言われる。

三〇 ダレイオスの二年九月二十四日、預言者ハガイに主の言葉が臨んだ。

三一 「万軍の主はこう言われる。祭司たちに、律法について尋ねなさい。

三二 「もし、だれかが、聖別された肉を衣の裾に入れて運んでいて、その裾がパン、煮物、ぶどう酒、油、そのほか何かの食物に触れたとする。これらのものは聖別されるだろうか」と、祭司たちは答えて、「されない」と言った。

三三 ハガイは言った。「もし、死体に触れて汚れた人が、これらのものの何かに触れたとする。これらのものは汚れるだろうか。」祭司たちは答えて、「汚れる」と言った。

三四 ハガイは答えて言った。「わたしにとって、この民はまさにそのようだ。この国はまさにそのようだ」と主は言われる。彼らの手の業もすべてそのようだ。彼らがそこにおいてささげるものは汚れている。

三五 今日この日から以後、よく心に留めよ。主の神殿の石を積み重ねる前に

三六 お前たちはどんな状態であったか。人が二十エファの小麦の山に来て、十エファしか得ず、五十バトのぶどう酒をくもつと酒がぬに來ても、二十バトしか得なかった。

三七 わたしは、お前たちを、その手の働きの実もろとも、異端病と赤さび病と雷で撃ったが、お前たちのつちだれひとり、わたしに帰らなかった、と主は言われる。

三八 この日以後、よく心に留めよ。この九月二十四日、主の神殿の墓が置かれたこの日から、心に留めよ。

三九 倉には、まだ種があるか。ぶどう、いちじく、さくろ、オリブは、まだ実を結んでいない。しかし、今日この日から、わたしは祝福を与える。」

四〇 同じ月の二十四日、主の言葉が再びハガイに臨んだ。

四一 「ユダの総督セルバベルに告げよ。わたしは天と地を揺り動かす。

四二 わたしは国々の王座を倒し、異邦の国々の力を砕く。馬を駆る者もろとも戦車を覆す。馬も、馬を駆る者も、互いに味方の剣にかかって倒れる。

四三 その日には、と万軍の主は言われる。わが僕、シエルティエルの子セルバベルよ、わたしはあなたを迎え入れ、と主は言われる。わたしはあなたをわたしの印章とする。わたしがあなたを選んだからだ」と、万軍の主は言われる。

四四 ハガイ書は短くて二章からなる預言書です。これだけです。今日読みましよう。捕囚にあつ前は「神殿さえあれば大丈夫」と思っていたのが、今度は「神殿とこころではない」とつてかわつたことを、ハガイは語ります。むかし「教会は素晴らしかった」と語っていた人々が「今は教会とこころじゃない」とつて言っている姿が見えるようなことはないでしょうか。今朝の箇所にあわせ、ネヘミヤ書やエズラ書とともに読みましよう。

わたしたちの神、主の喜びが、わたしたちの上にあがります。わたしたちの手の働きを、わたしたちのために確かなものとして、わたしたちの手の働きを、どつち確かなものにしてください。 わたしたちの手の働きを、わたしたちのために確かなものとして、わたしたちの手の働きを、どつち確かなものにしてください。

詩編九十七

# 週報

二〇二一年元日

清水草薙キリスト教会

日本フリーメソジスト

No.2984-0